

中学校 保健体育

学習指導要領改訂のポイントを踏まえた剣道の授業の工夫  
— 単元構造図と学習計画表の作成を通して —

義務教育課 指導主事 山内 明人

要 旨

今年度、新しい学習指導要領の全面実施となり、各学校では、学習指導要領の趣旨を具現化すべく授業に取り組み、その結果や課題が聞かれるようになってきた。本研究では、移行期間を経て、初めて授業を行った指導者の反省から、来年度の剣道の授業を組み立てる上での課題を整理し、剣道の指導内容を明確にするとともに、授業の進め方・評価方法について提案するものである。

キーワード：剣道の授業 剣道の授業の組立て 剣道の評価規準 剣道の指導内容の明確化

I 主題設定の理由

学習指導要領の全面実施に伴い、男女必修となった武道（剣道）では、各学校で工夫された様々な授業が行われた。移行期間を経て、初めて授業を行った県内の指導者の反省から、以下の課題が挙げられた。

- ・ 中学から行われる種目であり、生徒は剣道の経験がない。基本となる打突以前に剣道独特の基本動作や道具を着装する場面での、ひもを素早く結べないなど、本来の学習事項以外のことに想定外の時間がとられ、指導に予想以上に時間を要した。
- ・ 剣道の基本動作、所作、伝統的な考え方、基本打突のポイントなど、特に技能に関して教えなければならぬが多かったため、思考・判断を促す学習場を設定することが困難であった。
- ・ 指導者自身が剣道の指導に関して経験が少ないこと、また、指導者自身が剣道を体験したことが少ないため、指導内容を明確にし、ポイントを絞る事ができなかった。
- ・ 剣道の授業研究を目にする機会がなく、授業を進めるためのアイデアや指導法、評価方法などほかの運動種目に比べ教材研究不足であった。
- ・ 学習指導要領の指導内容を読み取り、4観点のバランスのとれた指導計画と評価規準をつくるのが難しい。
- ・ 授業を終えてみて、限られた時間の中で、何を優先すべきか改めて考えさせられた。
- ・ 技能、態度、知識、思考・判断の指導内容をバランスよく指導することができなかった。

これらの課題を整理すると、指導者が剣道の指導経験が少ないため「指導内容の精選の不足」「授業のポイントを絞り切れていないこと」「評価規準が具体的でなかったこと」など、授業を行う前の教材研究不足が挙げられる。また、ほかの種目にも言えることだが、運動技能の基礎・基本を生徒に限られた時間の中で教え込もうとしたために、教師主導の一斉指導型の授業形態をとらざるを得なくなった。そのため、生徒は互いに切磋琢磨する機会がなくなり、思考・判断する力を身に付けることができない。教師が指導内容を精選し、知識を基に、望ましい態度で、互いに試行錯誤しながら技能を高め、思考・判断していくような授業形態にしなければならない。

そこで本研究では、剣道の指導経験が少ない指導者に役立つよう、授業の展開や評価の工夫をした単元指導計画を提案するものである。

II 研究の目標

中学校保健体育科における、剣道の指導内容を明確にするために、単元構造図や学習計画表の作成を通して、第1学年の具体的な指導法を提案する。

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 中学校学習指導要領（平成20年3月）における体育分野の目標と「武道 剣道の内容」について

中学校学習指導要領（平成20年3月）「第7節 保健体育科 第2 各分野の目標及び内容〔体育分野 第1学年及び第2学年〕2 内容 F 武道（抜粋）と〔体育分野 第3学年〕2 内容 F 武道」（抜粋）は次のとおりである（文部科学省，2008）。

[体育分野 第1学年及び第2学年]

##### 1 目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。
- (2) 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

##### 2 内容

###### F 武道

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。  
イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

[体育分野 第3学年]

##### 1 目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。
- (2) 運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。
- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。

##### 2 内容

###### F 武道

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。  
イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

#### 2 剣道における学年ごとの目標設定例について

単元の目標は、その単元でどのようなことを目標とし、どのように指導しようとするかを明らかにするものである。したがって、剣道の単元では、剣道のどのような技能、態度、学び方を身に付けさせ、どのような練習や試合ができるようになることを目指しているかを明らかにしていくことが大切である。また、どの

ような望ましい行動の仕方を身に付けさせようとしているかも明らかにする必要がある。そこで、学習指導要領の第1・2学年の目標と内容を第1学年と第2学年にしっかり分け、それぞれの具体的な目標を設定した。

<p>第1学年の目標</p> <p>(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技ができる。</p> <p>(2) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>(3) 剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>第2学年の目標</p> <p>(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することができる。</p> <p>(2) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>(3) 関連して高まる体力などを理解し、技の名称や行い方、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>第3学年の目標</p> <p>(1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開することができる。</p> <p>(2) 剣道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとすることや、自己の責任を果たそうとすることができるようにする。</p> <p>(3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p>
--

### 3 剣道における評価規準の設定例について

国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」【中学校保健体育】では，単元の評価規準の取扱いを以下のように示している。また，剣道の目標の設定例にならない第1・2学年を第1学年と第2学年に分類し，表1として示した。

表1 評価規準 ○：第1学年の評価規準 ●：第2学年の評価規準 ◎：第1・2学年共通の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準  第 1 ・ 2 学 年	◎武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ◎相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ◎分担した役割を果たそうとしている。 ◎仲間の学習を援助しようとしている。 ◎禁じ技を用いないなど、健康・安全に留意している。	○技を身につけるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ●学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	◎剣道では、打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。	○武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ○武道の伝統的な考え方について、理解したことことを言ったり書き出したりしている。 ◎技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ●武道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ◎試合の行い方について学習した具体例を挙げている。

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の評価 規準 第3 学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</li> <li>・自己の責任を果たそうとしている。</li> <li>・互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>・健康・安全を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けている。</li> <li>・提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。</li> <li>・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</li> <li>・武道を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道では、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から基本となる技、得意技のいずれかができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> <li>・技の名称や見取り稽古の仕方について、学習した具体例を挙げている。</li> <li>・運動観察の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> <li>・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。</li> </ul>

#### 4 剣道における指導内容の系統性について

各学年に応じた目標設定例や評価規準の設定を踏まえて、何を重点的に学習させるのかを具体化することが重要である。剣道は、中学校において初めて学習する運動種目であるので、基礎的・基本的な指導内容を繰り返して指導する必要がある。更に、基礎的・基本的 内容を発展的に扱うために、高等学校での指導内容を確認することも必要である。このことを踏まえて、中・高を見通した「武道」（剣道）における指導内容の系統性を観点別に示したものが「剣道の指導内容系統表」（表2）である。なお、この系統表の作成に当たっては高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編を参考にした。

表2 剣道の指導内容系統表

	中学校第1学年・第2学年	中学校第3学年・高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降
技 能	<p>次の運動について、技のできる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。</p> <p>剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開する。</p>	<p>次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい得意技を身に付けることができるようにする。</p> <p>剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。</p>	<p>次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい得意技を用いた攻防が展開できるようにする。</p> <p>剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて、相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。</p>
態 度	<p>武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>	<p>武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>
知識、 思考、 判断	<p>武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p>	<p>伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p>	<p>伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。</p>

また、単元のねらいや指導計画を作成する上で、生徒の実態、施設・設備の状況等を踏まえ、次の事項に留意した。

- 学習指導要領解説の例に示された指導内容は、第1・2学年を通じたものが示されている。
- いずれかの学年で取り扱うことも、それぞれの学年で取り扱うことも可能である。
- 自校の3年間の年間計画から、剣道がどの学年で取り扱われているか確認する。
- 第1・2学年で剣道を指導する計画であれば、「技能」「態度」「知識、思考・判断」の指導内容を2年間に振り分けて指導することが可能である。

## 5 剣道の学年ごとの指導内容

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成20年9月）「第2章 保健体育科の目標及び内容 2 各分野の目標及び内容 F 武道 内容の取扱い（抜粋）」は次の通りである。

武道は、相手と直接的に攻防するという運動の特性や、中学校で初めて経験する運動種目であることなどから、各学年ともその種目の習熟を図ることができるよう適切な授業時数を配当し、効果的、継続的な学習ができるようにすることが必要である。また、武道は、段階的な指導を必要とするため、特定の種目を3年間履修できるようにすることが望ましい。

剣道は第1学年及び第2学年のいずれかの学年でまとめ取りするよりは、短い時間にはなるがそれぞれの学年10時間ずつ、第3学年では12時間実施することを前提とした。

また、指導内容については、第1学年及び第2学年については、いずれかの学年で、もれなく指導することができるよう学習指導要領解説の指導内容や例示を基に、剣道の(1)技能、(2)態度、(3)知識、思考・判断の指導内容に分け整理し、学年ごとの指導内容は表3に示した。

表3 剣道 学年ごとの指導内容

	第1学年	第2学年	第3学年
運 動 の 技 能	相手の動きに応じた基本動作 <ul style="list-style-type: none"> <li>構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段に構えること</li> <li>体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすること</li> <li>基本打突の仕方と受け方では中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること</li> </ul>	基本となる技を用いて攻防を展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の小手打ちに相手に対応して隙ができたとき、面を打つこと（小手一面）</li> <li>最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき、胴を打つこと（面一胴）</li> <li>相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つこと（引き面）</li> <li>相手と接近した状態にあるとき、隙ができた胴を退きながら打つこと（引き胴）</li> <li>相手が面を打つとき体をかかわして胴を打つこと（面抜き胴）</li> <li>相手が小手を打つとき体をかかわして面を打つこと（小手抜き面）</li> </ul>	相手の動きの変化に応じた攻防を展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>構えでは、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構えること</li> <li>体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作を行うこと</li> <li>基本打突の仕方と受け方では、相手に対しての距離を近くしたり遠くしたりして、打ったり受けたりすることで 応じ技へ発展するような活動をすること</li> <li>※自己の技能・体力の程度に応じて選択して得意技とする</li> <li>最初の小手打ちに相手に対応して隙ができたとき、胴を打つこと（小手一胴）</li> <li>最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき面を打つこと（面一面）</li> <li>相手と接近した状態にあるとき、退きながら隙ができた小手を打つこと（引き小手）</li> <li>相手が打とうとして手もとを上げた（下げた）とき、隙ができた面を打つこと（出ばな面）</li> <li>相手が打とうとして手もとを上げたとき、隙ができた小手を打つこと（出ばな小手）</li> <li>打ち込む隙がないとき、相手の竹刀を払って面を打つこと（払い面）</li> <li>打ち込む隙がないとき、相手の竹刀を払って小手を打つこと（払い小手）</li> <li>相手の小手打ちを竹刀ですり上げて面を打つこと（小手すり上げ面）</li> </ul>
	態 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること</li> <li>分担した役割を果たそうとすること</li> <li>仲間の学習を援助すること</li> <li>禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする</li> <li>自己の責任を果たそうとすること</li> <li>互いに助け合おうとすること</li> <li>健康・安全を確保すること</li> </ul>
知 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道の特性や成り立ちを理解できるようにすること</li> <li>伝統的な考え方を理解できるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連して高まる体力を理解できるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道が国際社会で生きていく上で有意義であることを理解できるようにすること</li> <li>運動観察の方法を理解できるようにすること</li> <li>体力の高め方を理解できるようにすること</li> <li>技の名称や見取り稽古の仕方を理解できるようにすること</li> </ul>
思 考 ・ 判	<ul style="list-style-type: none"> <li>技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけること</li> <li>仲間と協力する場面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に応じた練習方法を選ぶこと</li> <li>学習した安全上の留意点を他の練習場面にあてはめること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けること</li> <li>提供された攻防から、自己に適した攻防の仕方を選ぶこと</li> <li>仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法</li> </ul>

断	で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけること	を選ぶこと ・武道を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けること
---	--------------------------	--

## 6 剣道の指導内容と学習活動に即した評価規準の関連

3年間を見通した評価規準と指導内容を整理した上で、関連を表4から表6に示した。表中で□内は具体的な指導内容、丸数字は学習活動に即した評価規準を示す。

表4 剣道 具体的な指導内容及び学習活動に即した評価規準 (第1学年)

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
第1学年	<p>・剣道の学習時は、用具や場所の安全はもちろん、打ったり受けたりするときの安全な活動の仕方を理解し活動すること。</p> <p>↓</p> <p>①自他の健康や安全に常に気を配っている。</p> <p>↓</p> <p>・分担した役割を果たすことは、練習や試合を円滑に進めるときやさらには社会生活に責任を感ずること。</p> <p>↓</p> <p>②グループ活動を円滑に進めるために分担した役割を果たそうとしている。</p> <p>↓</p> <p>・仲間の技や動きを観察・判定し合うことで互いに高め合い、気持ちよく活動すること。</p> <p>↓</p> <p>③仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>↓</p> <p>・相手との呼吸、間の取り方を身に付け、勝敗だけにこだわらない、相手を尊重する態度を身に付けること。</p> <p>↓</p> <p>④相手を尊重し、剣道の作法や所作を常に守ろうとしている。</p>	<p>・分担した役割に応じた協力する場面の設定。</p> <p>・毎時間、審判法を用いたローテーションで行ったときは正しいポイント意識した行動をする。</p> <p>↓</p> <p>①仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた適切な協力の仕方を見付けている。</p> <p>↓</p> <p>・観察場面の設定と動きや技のポイント掲載した資料の提示。毎時間、審判法を用いたローテーションで繰り返して審判を行うときは正しい判定をするための動きや技のポイントを意識した行動と自分では気づかない技のポイントに気づき自分の動きを修正する。</p> <p>↓</p> <p>②技を身につけるための運動の適切な行い方のポイントを見付けている。</p>	<p>・姿勢は背筋を伸ばし顎を引き、目付けは相手をしっかりと見ること。</p> <p>・竹刀の握り方は、右手は鏝下を左手は柄頭を余さないように両手とも親指と人差し指の付け根が真上になるように握ること。</p> <p>・構えは、剣先が喉の高さで剣先の延長上が相手の眼に付くよう、肘は軽く曲げ、左手はへそ前で拳は1つあける。歩幅は肩幅で右足が一步前左踵を少し上げて構えること。</p> <p>・座礼と相手に対しての15度の立礼、躊躇は背筋を伸ばし、相手をしっかりと見、構えること。</p> <p>・足さばきは、構えたままの足の位置で進む方向にある足からすり足で進むこと。</p> <p>・素振りには、振り上げた時、剣先が下がらないようにし、剣先に力が入った振り出し、振り下ろすと同時に足を出すこと。</p> <p>↓</p> <p>①剣道の構え、基本動作が正確にできる。</p> <p>↓</p> <p>・有効打突の条件である充実した気勢、適正な姿勢、打突部で打突部位を刃筋正しく打つこと。</p> <p>↓</p> <p>②基本打突が正確にできる。</p> <p>↓</p> <p>・それぞれの技のポイントを意識した動きをすること。</p> <p>↓</p> <p>③「基本となる技」しかけ技の正確な動きを身に付けることができる。</p>	<p>○VTRの活用を通して</p> <p>・剣道は日本の風土から生まれた刀剣の操作心法を起源にしてきた運動文化であること。</p> <p>・伝統的な行動様式を有しているため礼法や所作に留意する態度が育成されること。</p> <p>↓</p> <p>①剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方があることを書き出している。</p> <p>↓</p> <p>○VTRの活用を通して</p> <p>・対人競技で大切にされていること。</p> <p>・剣道を通して見につけたい力。</p> <p>・礼法を行う意味。</p> <p>・剣道で使う礼法と所作。</p> <p>・剣道をするときの約束事。</p> <p>・他の競技にはない約束事(ルール)。</p> <p>↓</p> <p>②剣道の所作、簡単な試合におけるルールと審判法を書き出せる。</p> <p>↓</p> <p>・充実した気勢。</p> <p>・適正な姿勢。</p> <p>・竹刀の打突部位で刃筋正しく。</p> <p>・正しい打突部位を打突。</p> <p>・残心あるもの。</p> <p>↓</p> <p>③自分の技(課題)を身につけるための技術的なポイントについて具体的に書き出せる。</p>

表5 剣道 具体的な指導内容及び学習活動に即した評価規準 (第2学年)

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
第2学年	<p>・剣道の学習時は、用具や場所の安全はもちろん、打ったり受けたりするときの安全な活動の仕方を理解し活動すること。</p> <p>↓</p>	<p>・技の名称や具体的な行い方や活用方法の提示。</p> <p>↓</p> <p>①自己の課題を見付け解決できる適切な練習方法を選べ</p>	<p>・小手一面 最初の小手打ちに相手に対応して隙ができたとき、面を打つこと。</p> <p>・面一胴 最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき、胴を打つこと。</p>	<p>・剣道を行うことによって鍛えられる筋力、持久力、調整力が養われ、敏捷性と巧緻性が育成されること。</p> <p>↓</p>

学 年	<p>①自他の健康や安全に常に気を配っている。</p> <p>・分担した役割を果たすことは、練習や試合を円滑に進めることやさらには社会生活を過ごす上での責任感を育てること。</p>	<p>・技の習得のため審判法を用いた簡易試合や、グループでの課題学習の場面で学習した安全面の知識を活用する場面の設定。</p>	<p>・引き面 相手と接近した状態にあるとき隙ができた面を退きながら打つこと。</p> <p>・引き胴 相手と接近した状態にあるとき隙ができた胴を退きながら打つこと。</p> <p>・面抜き胴 相手が面を打つとき、体をかかわして胴を打つこと。</p> <p>・小手抜き面 相手が小手を打つとき、体をかかわして面を打つこと。</p>	<p>①剣道に関連して高められる体力について学習した具体例を挙げている。</p> <p>・充実した氣勢。</p> <p>・適正な姿勢。</p> <p>・竹刀の打突部位で刃筋正しく。</p> <p>・正しい打突部位を打突。</p> <p>・残心あるもの。</p>
	<p>↓</p> <p>②グループ活動を円滑に進めるために分担した役割を果たそうとしている。</p> <p>・仲間の技や動きを観察・判定し合うことで互いに高め合い、気持ちよく活動すること。</p>	<p>↓</p> <p>②学習した安全上の留意点を他の練習の場面でも適切に見付けている。</p>	<p>↓</p> <p>①「基本となる技」しかけ技・応じ技の正確な動きを身に付けることができる。</p> <p>・相手の動きに応じては間合いや技を打たせるタイミングが大切であるため、相手に合わせて打つ技能と打たせる技能の両方の動きを知り正確な打突をすること。</p>	<p>↓</p> <p>②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○簡易試合をローテーションし繰り返し行うことで試合をする側、審判をする側の体験させることを通して</p> <p>・対人競技で大切にされていること。</p> <p>・剣道を通して見に付けたい力。</p> <p>・礼法を行う意味。</p> <p>・剣道で使う礼法と所作。</p> <p>・剣道をするときの約束事。</p> <p>・他の競技にはない約束事（ルール）。</p>
	<p>↓</p> <p>③仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>・相手との呼吸、間の取り方を身に付け、勝敗だけにこだわらない相手を尊重する態度を身に付けること。</p>		<p>↓</p> <p>②相手の動きに応じてしかけ技、応じ技を正確に打つことができる。</p>	<p>↓</p> <p>③剣道の所作、簡単な試合におけるルールと審判法を書き出せる。</p>
	<p>↓</p> <p>④相手を尊重し、剣道の作法や所作を常に守ろうとしている。</p>			

表6 剣道 具体的な指導内容及び学習活動に即した評価規準 (第3学年)

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
第3学年	<p>・既習の学習から用具や場所の安全はもたらぬ、練習時の安全な活動の仕方を理解し自分たちで工夫した活動を行うこと。</p> <p>↓</p> <p>①健康や安全に留意して自主的な活動をしている。</p> <p>・審判法を用いたグループ活動を行うことで、技能だけでなく所作や礼法も気を付け、互いを判定し合うことで互いを高め合うこと。</p> <p>↓</p> <p>②勝敗だけにこだわらず相手を尊重した活動をしている。</p> <p>・分担した役割を果たすことは、練習や試合を円滑に進めることやさらには社会生活を過ごす上での責任感を育てることにつながる。</p> <p>↓</p> <p>③グループ内の活動に責任を持って役割を果たそうとしている。</p> <p>・練習の中で自分だけでは気付かないことを仲間から助言して</p>	<p>・観察場面の設定と動きや技のポイントの段階的な練習方法掲載した資料の提示。</p> <p>↓</p> <p>①自分や仲間の技術的な課題を見付け、有効な練習方法を計画している。</p> <p>・技の習得のため観察場面の設定と、技のポイントを掲載した資料の提示。</p> <p>↓</p> <p>②提供された攻防の仕方から、自分に適した得意技を見つけている。</p>	<p>○打ってこない相手に対する技（しかけ技とでばな技）</p> <p>・小手一胴 最初の小手打ちに相手に対応して隙ができたとき、胴を打つこと。</p> <p>・面一面 最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき、面を打つこと。</p> <p>・引き小手 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた小手を退きながら打つこと。</p> <p>・でばな技 相手が打とうと手元を上げたとき、隙ができた所を打つこと。</p> <p>・払い技 打ち込む隙がないとき、相手の竹刀を払って打突部を打つこと。</p> <p>○相手が積極的に打ってくる相手に対する技（応じ技）</p> <p>・小手すり上げ面 相手の小手打ちを竹刀ですり上げて面を打つこと。</p> <p>・それぞれを相手との間合いや技を出すタイミングを知り、正確な打突をすること。</p> <p>↓</p> <p>①自分に適した相手の動きの変化に応じた技ができる。</p> <p>・相手の動きに応じて</p>	<p>・対人競技である剣道を学習する中で他のスポーツとは違う点を意識して活動させる。</p> <p>・対人競技で大切にされていること。</p> <p>・剣道を通して見に付けたい力。</p> <p>・礼法を行う意味。</p> <p>・剣道をするときの約束事。</p> <p>・他の競技にはない約束事（ルール）。</p> <p>↓</p> <p>①剣道の伝統的な考え方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・審判法を用いたグループ活動を継続して行うことで、運動観察のポイントを見取る力を高めること。</p> <p>↓</p> <p>②自己観察や他者観察など運動観察の方法について、理解したことを書き出せる。</p> <p>・充実した氣勢。</p> <p>・適正な姿勢。</p> <p>・竹刀の打突部位で刃筋正しく。</p> <p>・正しい打突部位を打突。</p> <p>・残心あるもの。</p>

もらうこと。 ↓ ④互いに助け合い教え合おうとしている。	しかけ技や応じ技をスムーズに打つこと。 ↓ ②しかけ技や応じ技を用いた攻防をスムーズに展開することができる。	↓ ③自分の選んだ得意技をうまく行うためのポイントを具体的に書き出せる。
------------------------------------	--	---

## 7 単元構造図による指導内容と学習の流れ、評価機会の検討

「指導と評価の計画」の検討に際して、効果的・効率的な評価を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるため、指導と評価の機会・評価期間・評価方法を明確化した第1学年の単元構造図（表7）を作成した。

表7 単元構造図 第1学年

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習の流れ	オリエンテーション	共通メニュー（準備運動、補強運動、今日の学習確認）体づくり運動の活用									
		前時学習の復習（ポイントの確認）									
		礼法 構え 蹲踞 足さばき 体さばき 基本動作の学習 基本打突の学習					基本となる技				
		グループによる審判法を取り入れた試合（審判法）による活動									
		共通メニュー（整理運動・振り返り・学習カード・次回の課題等）									
指導と評価の機会	技能	第1学年の目標（1）									
	態度	第1学年の目標（2）									
	知識	第1学年の目標（3）									
	思考判断										
機会と方法	態度										
	思考判断										
	技能										
	知識										
		○指導 □主の評価 ◇補助的な評価 ☆学習カード等による評価									

観点別評価の「運動への関心・意欲・態度」及び「運動の技能」は、定着に時間を要し、観察評価が中心となるため、学習の流れの中で適切な指導をし、学習時間を確保した上で評価を行えるようにした。「運動についての知識・理解」及び「運動についての思考・判断」は、主に、学習ノート等によって評価を行うため、その日のうちに確認のための評価情報を収集し、評価を行うように計画した。また、「運動についての思考・判断」では、6時間目に①を指導し評価しているように、知識、技能、態度などの学習を経た上で活用する場面を設定し、評価するように工夫した。単元の時間が少ない中での活動のため、主の評価(□)の時間内に評価できなかったものについては、補助的な評価(◇)の時間で評価をする計画とした。

## 8 剣道の学習内容に即した具体的な評価の視点の例

表7の各時間の具体的な学習内容と評価の視点を以下のように整理した。

表8 第1学年 剣道学習計画表

時間	学習内容	評価の視点（学習カード・観察の視点）	機会と方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の進め方の確認</li> <li>・目標と学習内容（VTR）</li> <li>・剣道の特性（VTR）</li> <li>・礼法（VTR）</li> <li>・竹刀と道具の取り扱い方</li> <li>・グルーピング</li> </ul>	①剣道の目標と学習内容、特性 ②礼法（立礼、座礼、帯刀、蹲踞、左座右起）の仕方 ③竹刀＝刀、点検の仕方 ④礼は対人競技における合気	知①☆
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本動作の学習</li> <li>・基本的な礼法</li> <li>・構え、蹲踞、足さばき、体さばき</li> <li>●基本動作の審判の仕方</li> <li>・判定方法、試合の所作</li> </ul>	①剣道を行う上での安全上注意する点 ②竹刀の握りかた（つるの位置） ③構えたときの姿（姿勢と竹刀の位置） ④右足が一步前、重心は体の中心、動く方向の足から移動すり足、踏み込み足、正しい姿勢と目線・剣先の位置 ⑤グループ活動でのスムーズなローテーション ⑥判定は人に左右されない	知②☆



3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本動作の学習②</li> <li>・素振り, 掛け声</li> <li>●基本動作の審判②</li> <li>・基本動作の簡易試合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①安全上注意する点を意識した活動</li> <li>①素振りのポイント</li> <li>②判定規準(基本動作のポイント)の確認</li> <li>気・剣・体の一致, 構えと打突の違い</li> <li>③判定基準を意識した活動</li> <li>④グループ活動でのスムーズなローテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関①</li> <li>知②☆</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道具の付け方の学習</li> <li>・面タオル, 垂, 胴, 面, 小手</li> <li>・基本動作の学習③</li> <li>●基本動作の審判③</li> <li>・基本動作の簡易試合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①判定基準を意識した活動</li> <li>②所作・基本動作・素振りのポイント</li> <li>①道具の名称と安全な装着</li> <li>②ひもの結び方, 道具の付け方の順序</li> <li>③竹刀打突の間合いと打ちと受けのタイミング</li> <li>④気・剣・体の一致を見極め判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技①</li> <li>知②☆</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道具の付け方の試合</li> <li>・判定方法</li> <li>●基本打突の学習</li> <li>・面, 小手, 胴打ち</li> <li>・打たせ方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループで協力し途中で取れないしっかりした着装</li> <li>②積極的なグループ活動を進めるための役割分担</li> <li>①基本打突のポイント</li> <li>②打ちつけない打ち方と引き立てる打たせ方</li> <li>③間合いと打突のタイミング</li> <li>④判定規準(基本打突のポイント)の確認</li> <li>⑤判定基準を意識した活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関②</li> <li>知②☆</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本打突の学習②</li> <li>●基本打突の簡易試合①</li> <li>・基本打突の判定の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループ活動での分担した役割に応じた協力の仕方</li> <li>②繰り返し行う簡易試合を通して, 審判・試合者双方の活動を行うことにより, 仲間と協力した適切な協力の仕方を見つけたこと書き出す活動</li> <li>①判定基準を意識した活動</li> <li>②基本打突のポイント</li> <li>①所作や礼法(雑にならないよう)</li> <li>②気・剣・体の一致を見極め判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思①☆</li> <li>技②</li> <li>知②☆</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本となる技の学習①</li> <li>・攻めて打つ(面, 小手, 胴)</li> <li>●基本打突の簡易試合②</li> <li>・基本打突の判定の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①互いを高め合えるグループ学習での助言の仕方</li> <li>②活動を通してポイントを教え合う</li> <li>①基本となる技のポイントの確認</li> <li>②間合いと打突のタイミング</li> <li>③判定規準(基本打突のポイント)の確認</li> <li>④判定基準を意識した活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関③</li> <li>知③☆</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本となる技の学習②</li> <li>・攻めてあいたところを打つ(面, 小手, 胴)</li> <li>●基本となる技の簡易試合①</li> <li>・基本となる技の判定の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①気・剣・体の一致を意識した打突</li> <li>②攻めて相手が空けた場所を打つ</li> <li>③間合いと打突のタイミング</li> <li>④判定規準(基本となる技のポイント)の確認</li> <li>⑤判定基準を意識した活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知③☆</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本となる技の簡易試合②</li> <li>・試合のルール確認</li> <li>●基本となる技の学習③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本となる技の判定基準から総合的に判断し, 判定することで技術的なポイントを意識した活動</li> <li>②間合いと打突のタイミング</li> <li>③判定規準(基本となる技のポイント)の確認</li> <li>①簡易試合を通して, 基本となる技を身に付けるための仲間からの助言を基に自分の動作を修正する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技③</li> <li>思②☆</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本となる技の簡易試合③</li> <li>●グループでの話合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①礼法や所作を意識した活動</li> <li>②自分の取組を振り返り, 技能面や態度面についてまとめて書き出す活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関④</li> </ul>

#### IV 研究のまとめ

中学3年間で行う剣道の授業を, 決められた授業時間数の中で, 技能, 態度, 知識, 思考・判断のそれぞれの指導内容をバランスよく指導するためには, 教師が学習指導と学習評価の一体化を意識し, 学習過程の創意工夫と指導内容と評価項目の明確化を意識することが大切である。

技能と思考力・判断力が同時に高まっていくような剣道の授業になるためには, 生徒が教師の精選した知識と相手を尊重し, 伝統的な行動の仕方を守ろうとする態度で, 技能を身に付ける過程において, 互いに切磋琢磨する活動を繰り返すことが必要である。今回の研究では, 学習計画表の作成の中に, 審判法を用いたグループ活動による簡易試合を通して, 精選した知識を与え, 技能を高めるための活動と思考・判断する活動を繰り返す場面を設定した。剣道の授業において, 思考力を蓄積していくためには, 数多く自分自身で判断する機会をつくるのが, 学習指導要領の趣旨に照らして剣道の授業の充実につながると考える。

## V 今後の課題

今回の研究では、第1学年の単元構造図と学習計画表だけを提案したが、全学年の単元構造図と学習計画表を作成し当センターの授業情報システムなどを利用して広く県内教師に提供したい。

具体的にまとめた評価規準や評価をするポイント、技能のポイントをもとに、生徒にも見やすくわかりやすい学習ノートという形で整理していきたい。

### 〈引用文献〉

- 1 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領（平成20年3月告示）』，p. 85, p. 87, p. 89, p. 91, p. 92
- 2 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成20年9月）』，p. 117

### 〈参考文献〉

- 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成20年9月）』
- 文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成21年12月）』
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2011 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 保健体育（平成23年11月）』